

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
[^] ⇒ ^ : 数値が高いことが望ましい指標
v : 数値が低いことが望ましい指標
[増減] ⇒増減: 現在の水準から増加又は減少させていく指標
維持: 水準を維持していく指標

資料 4

部会	施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等			
			目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期 中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度				第3期中間 達成度
第1部会（子育て・教育・福祉部会）	1-4-1 総合的なケアの推進 (多様な主体による地域での 支え合いのしくみをつくる)	介護予防の取組として、地域の活動に参加する人の割合	目標値				17.5	-	20	%	↗	d	-	d	●「介護予防の取組として、地域の活動に参加する人の割合」が目標を下回った理由については、新型コロナウイルス感染症の感染リスクに関する不安から活動を控えたことに加え、活動者の固定化・高齢化に伴う新たな担い手の不足、高齢者の通いの場・活動の場の減少などが要因であることが考えられます。今後は、高齢者の多様なニーズを踏まえながら、コロナを契機に活動機会が減った人に戻ってきてもらうことや、新しい活動者を増やすこと、また、地域の活動の場の創出等に向けて、民間企業等と連携した取組を検討する必要があります。	
		実績値	10.6	11.5	11	8.7	-		増減							
	民生委員児童委員の充足率	目標値					97.2	97.5	98.2	%	↗	c	c	c	●「民生委員児童委員の充足率」については、令和4年度から0.5ポイント低下して82.0%となり、目標の充足率には届きませんでした。全国的には人口が減少している中、本市は人口の増加とともに世帯数が増加していることから、民生委員児童委員の定数増に委嘱が追いついていない状況が続いています。令和5年度は、町内会をはじめとした地域の人財づくりに向けた住民向けのワークショップや活動を身近に感じられるツアーの開催、周知広報のための動画ツールを作成したこと等により、一定の効果はあったものと考えていますが、今後、若い世代を含めた新たな担い手の確保を意識しながら、引き続き充足率の向上を目指して取組を進めることが必要と考えています。	
		実績値	90.5	87.8	83.1	82.5	82		増減							
	介護人材の不足感	目標値					71	-	70	%	↘	c	-	c	●介護人材の不足感については、人材確保や定着に向けた取組や負担軽減に向けた取組を継続的に行っているものの、社会的な人材不足に加え、身体的・精神的負担が大きい業種であること、報酬改定による処遇改善が行われているものの平均賃金が低いこと、東京都や横浜市内に挟まれ、都市間競争の影響を強く受けやすいことなどが複合的に影響し、不足感が増しているものと考えています。今後、上記のような構造的な問題はあるものの、超高齢社会の進展により、より多くの介護人材が必要となることから、市としてできる必要な取組や支援を引き続き行っていく必要があります。	
		実績値	75.7	77.2	75.8	79.8	-		増減							
	介護人材マッチング・定着支援事業の求職者のうち就職した人数	目標値					88	92	100	人	↗	b	d	d	●介護人材マッチング・定着支援事業については、事業内容の周知が行き届かず事前説明会への参加者が減少したことに加え、事前説明会参加後に他職種への採用が決定したことによる支援の終了や、支援が途中で終了となる方の増加などの要因により、目標を達成できませんでした。引き続き、介護職の魅力発信を継続するとともに、効果的な事業周知及び普及啓発に取り組む必要があると考えています。	
		実績値	第3期から設定	第3期から設定		82	87	53	増減							
	1-4-3 高齢者が生きがいを持てる 地域づくり (高齢者が生きがいをもって 暮らせる環境をつくる)	高齢者向け施設（いきいきセンター）の利用実績	目標値				29.13	29.15	29.2	万人	↗	d	c	c	●「いきいきセンター」の利用者については、コロナ禍の利用制限により減った利用者数は徐々に回復しているものの、コロナ前の水準までは戻っておらず、目標は下回りましたが、徐々に復調してきており、高齢者に地域活動の場を提供し続け、社会参加の充実を図るという点においては一定の成果があったものと考えます。	
	実績値	28.9	28.2	11.1	17.2	18		増減								
	1-4-4 障害福祉サービスの充実 (障害者が生活しやすい 環境をつくる)	長期（1年以上）在院者数（精神障害）65歳以上	目標値					393	385	368	人	↘	c	c	c	●長期（1年以上）在院者数（精神障害）については、入院後12カ月時点での退院率は91.2%※で、新規入院患者のうち一定数は入院期間が1年を超えており、在院期間別内訳においても1年以上5年未満の入院者が最も多く、入院が長期化することによって退院意欲の低下、家族からの孤立、社会との交流の減少等の退院を阻害する要因が悪化するため、入院早期から地域移行支援を視野に入れた支援体制を地域の関係機関とネットワークを構築しながら整える必要があります。（※出典：令和元年度 厚生労働科学研究「医療計画、障害福祉計画の効果的なモニタリング体制の構築のための研究」（研究代表者：山之内芳雄））からの報告 NDBデータを活用して算出）
		実績値	345	434	449	444	433		増減							
	1-4-7 生き生きと暮らすための健康 づくり (健康で生き生きとした生活 を送る市民を増やす)	食に関する地域での活動に参加する人の割合（食育に関する地域活動への参加割合）	目標値					40	-	41	%	↗	c	-	c	●食に関する地域での活動に参加する人の割合については、「日頃から、健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしている人」の割合が前回調査から減少しており、新型コロナウイルス感染症のまん延により、地域における食育推進の取組は難しい時期が続いたことが一因であると考えられることから、引き続き、地域で活動するボランティア等や関係団体と連携して取り組む必要があります。
		実績値	38.3	33.6	31.2	30.9	-		増減							
	1-5-2 自立生活に向けた取組の推進 (健康で文化的な最低限 の生活を保障するととも に、自立した生活を送る人 を増やす)	学習支援・居場所づくり事業利用者の高校等進学率	目標値					100	100	100	%	↗	a	c	c	●学習支援・居場所づくり事業について、小学3年生から中学3年生までを対象に、市内17か所で支援を実施しました。R5の高校等進学率は1名就職希望者がいたことから目標を下回りましたが、それ以外の進学を希望する対象者については100%高校に進学したことから、自立生活に向けた支援として一定の成果があったと考えます。
		実績値	99	100	100	100	98.2		増減							
	1-6-1 医療供給体制の充実・強化 (いつでも安心して適切な 医療が受けられる環境を 整える)	かかりつけ医がいる人の割合	目標値					-	60.5	61	%	↗	-	c	c	●「かかりつけ医がいる人の割合」は目標を下回っており、かかりつけ医に係るアンケートの自由意見には、「そもそも病気をしない」「信頼できる医者がない」などの意見が多いことから、目標を下回っている一因となっていると考えていますが、市民一人ひとりが身近な範囲で必要な時に相談ができる「かかりつけ医」を持つことは重要であることから、引き続き、関係団体と連携を図りながら、必要性の理解や意識や質の向上に向けた取組や、より効果的な情報発信を継続していく必要があると考えます。
実績値		57.5	59.5	58.6	-	56.31		増減								
救急搬送者の119番通報から医療機関までの平均搬送時間【うち救急車の現場到着時間】		目標値					42[8.8]	41.4[8.6]	40.0[8.0]	分	↘	c	c	c	●令和5年の救急件数は令和4年よりも増加しましたが、増加する救急需要に対応することを目的に、7月以降各署からの応援体制による日中運用の救急隊の試行を実施したことなどにより、目標値を達成することはできませんでしたが、救急車の現場到着時間は昨年よりも短縮し、救急医療体制の改善を図ることができました。	
		実績値	42.6[8.4]	40.8[8.4]	42.6[9.0]	49.8[10.2]	47.5[9.8]		増減							
市立看護短期大学及び市立看護大学新卒者の市内就職率		目標値					71.8	72.8	75	%	↗	c	c	c	●市立看護短期大学新卒者の市内就職率については、市内就職につながる奨学金（川崎市弘済会奨学金、川崎市看護師等修学資金）の利用や、市病院局・健康福祉局に勤務する卒業生による就職ガイダンスの実施により、市内就職促進に取り組んでまいりましたが、目標を下回っています。今後は、令和4年度に開学した市立看護大学新卒者の市内就職促進に向けて、大学開学と同時に創設した大学奨学金制度や、令和6年度に初めて実施した市内病院による合同就職説明会等の取り組みを進めてまいります。	
		実績値	第3期から設定	第3期から設定		69.6	67.7	66.1	増減							
1-6-2 信頼される市立病院の運営 (誰もが安心して暮らせる 公的医療を提供する)	病床利用率（一般病床）	目標値					83	83	83	%	↗	c	c	c	●「病床利用率」については、令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱いの変更を受け、入院制限の緩和を行い、救急患者の積極的な受入や、地域医療連携の強化等の取組を推進し、令和4年度と比較して入院患者数は増加しているものの、感染対策の観点から稼働病床を縮小しての運用は一部継続していることにより、入院患者数の回復は限定的であり、目標値を達成できませんでした。	
	実績値	72.9	76.5	65.9	65.2	71.4		増減								
	救急患者受入数	目標値					52,500	52,500	52,500	人	↗	c	c	c	●「救急患者受入数」については、目標値を達成できませんでした。これは、近隣医療機関の救急医療体制の強化に伴い、市立病院への救急受入要請数が減少傾向にあることや新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後も患者の受診控えにより、自力での救急受診が減少していることなどが、原因と考えています。一方で、救急車による救急搬送患者数については増加しており、救命救急センターを有する川崎病院においては、重症患者の救急搬送はほぼ断ることなく受け入れており、井田病院においても飛躍的に救急応需率の向上に努め、公立病院としての役割を果たすことができている。	
		実績値	49,873	48,835	30,383	35,538	35,093		増減							

※掲載している数値や区分等については、現時点での見込であり、今後、修正・変更になる可能性があります。

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
[^] ⇒ ^ : 数値が高いことが望ましい指標
 v : 数値が低いことが望ましい指標
[増減] ⇒増減: 現在の水準から増加又は減少させていく指標
 維持: 水準を維持していく指標

部会	施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等			
			目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度				
1-6-3	健康で快適な生活と環境の確保 (感染症・食品等による健康被害を防止するとともに、良好な生活環境を整える)	感染症予防(手洗い・咳エチケット)の実施率	目標値					98	98	%	↗	-	c	c	●「感染症予防(手洗い・咳エチケット)の実施率」及び「食中毒予防の3原則」の実施率については、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症へ移行し、マスク着用については個人の判断によることとされる等、行動制限が緩和されたことにより目標を達成できなかったものと推察します。	
		実績値	95	94	98		94.95		増減							
		「食中毒予防の3原則」の実施率	目標値					89	90	%	↗	-	c	c		●「感染症予防(手洗い・咳エチケット)の実施率」及び「食中毒予防の3原則」の実施率については、新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類感染症へ移行し、マスク着用については個人の判断によることとされる等、行動制限が緩和されたことにより目標を達成できなかったものと推察します。
		実績値	86.8	84.1	87.3	-	84.9		増減							
2-1-1	子育てを社会全体で支える取組の推進 (地域で子育てを支えるしくみをつくる)	ふれあい子育てサポートセンターの延べ利用者数	目標値				13,523	13,234	12,948	人	↗	c	c	c	●「ふれあい子育てサポートセンターの延べ利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、接触を極力避けようという社会的風潮から令和2年度以降大幅に減少し、感染症終息後も在宅勤務等、新たな生活様式が定着したことも考えられ、急激な回復とはならず、目標値を下回りましたが、地域で子育てを支えるしくみづくりは、互いに支え合う子育て援助活動の取組によって推進しており、延べ利用者数やヘルパー会員の登録者数は引き続き増加傾向にあることから、令和7年度の目標達成に向け、一定の成果があったものと考えます。	
		実績値	15,665	15,596	8,292	10,988	11,464		増減							
2-1-3	子どものすこやかな成長の促進 (子どもがすこやかに成長できるしくみをつくる)	わくわくプラザの登録率	目標値				49.5	50	51	%	↗	c	c	c	●わくわくプラザの登録率は目標値を下回りましたが、今年度を四半期ベースで見ると4月:38.2%、7月:40.8%、10月:41.5%と徐々に回復傾向にあり、全ての小学生の安全・安心な放課後の居場所として、一定の役割を果たしています。	
		実績値	46.3	48.1	36.2	34	41		増減							
2-2-1	「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進 (すべての子どもが社会で自立して生きていくための基礎を培う)	「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合【小6】	目標値				81.2	81.5	82	%	↗	c	-	c	●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえばしている【小5】【小6】【中2】【中3】では、目標を下回りました。また、令和5年度から全国学力・学習状況調査において設問がなくなったため、川崎市学習状況調査において、【小5】【中2】と比較すると、令和4年度に比べて、令和5年度の実績値が下がっています。令和5年度から、調査の実施時期を小学校では5月から4月に、中学校では11月から4月に変更したことで、5月に開催することが多い体育祭や運動会などの大きな行事を経験する前に調査に回答する影響が考えられます。様々な活動の中でトライアンドエラーの機会を設け、キャリア・パスポートを活用しながら、挑戦する姿勢を価値付け、粘り強く取り組むことができるよう支援していく必要があります。	
		実績値	75.9	78.8	73	74.7	-		増減							
		「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合【小5】	目標値				80.3	80.9	82	%	↗	c	c	c	●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえばしている【小5】【小6】【中2】【中3】では、目標を下回りました。また、令和5年度から全国学力・学習状況調査において設問がなくなったため、川崎市学習状況調査において、【小5】【中2】と比較すると、令和4年度に比べて、令和5年度の実績値が下がっています。令和5年度から、調査の実施時期を小学校では5月から4月に、中学校では11月から4月に変更したことで、5月に開催することが多い体育祭や運動会などの大きな行事を経験する前に調査に回答する影響が考えられます。様々な活動の中でトライアンドエラーの機会を設け、キャリア・パスポートを活用しながら、挑戦する姿勢を価値付け、粘り強く取り組むことができるよう支援していく必要があります。	
		実績値	第3期から設定	第3期から設定	79.8	78.5	74.9		増減							
		「授業がわかる、どちらかといえばわかる」と回答した児童生徒の割合【小5】	目標値				93.2	93.5	94	%	↗	b	c	c	●令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、教科に関する調査において本市の平均正答率は、全国平均と比較すると上回っている結果となっています。また、令和5年度の川崎市学習状況調査における授業の理解度では、小学校5年生の84.6%、中学校2年生の66.8%(各対象科目の平均値)が「わかる、どちらかといえばわかる」と回答しており、前年度より実績が下がっています。令和5年度から、実施時期を小学校では5月から4月に、中学校では11月から4月に変更したこと、特に令和5年度は4月上旬に実施したため、実施時期の変更初年度という点や、学校生活が新たな環境に変わった年度初めの時期に行ったこと等の影響が考えられます。さらに中学校は学習への取組がより充実する秋の実施から、年度初めの実施に変更したため、理解度が大きく下がったと考えられますが、様々な要因が考えられますので、今後は児童生徒が調査時に安心して取り組めるよう支援するとともに手立ての充実を図ってまいります。各教科等の指導に当たっては、資質・能力がバランスよく育成されるよう、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが必要です。	
		実績値	88.3	90.9	90.1	89.3	84.6		増減							
		「授業がわかる、どちらかといえばわかる」と回答した児童生徒の割合【中2】	目標値				80.5	81	82	%	↗	b	c	c	●令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、教科に関する調査において本市の平均正答率は、全国平均と比較すると上回っている結果となっています。また、令和5年度の川崎市学習状況調査における授業の理解度では、小学校5年生の84.6%、中学校2年生の66.8%(各対象科目の平均値)が「わかる、どちらかといえばわかる」と回答しており、前年度より実績が下がっています。令和5年度から、実施時期を小学校では5月から4月に、中学校では11月から4月に変更したこと、特に令和5年度は4月上旬に実施したため、実施時期の変更初年度という点や、学校生活が新たな環境に変わった年度初めの時期に行ったこと等の影響が考えられます。さらに中学校は学習への取組がより充実する秋の実施から、年度初めの実施に変更したため、理解度が大きく下がったと考えられますが、様々な要因が考えられますので、今後は児童生徒が調査時に安心して取り組めるよう支援するとともに手立ての充実を図ってまいります。各教科等の指導に当たっては、資質・能力がバランスよく育成されるよう、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが必要です。	
		実績値	73.4	77.2	79.6	79	66.8		増減							
		「学習がすきだ、どちらかといえばすきだ」と回答した児童生徒の割合【小5】	目標値				80.2	80.5	81	%	↗	c	c	c	●「学習が好きだ、どちらかといえば好きだ【小5】【中2】では、前年度より実績値が下がっています。実施時期が令和5年4月上旬であり、新年度における学習の楽しさ等をまだ感じられていない段階での調査であったこと、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験的な活動等様々な活動が制限されていた令和4年度の取組に対しての反応があったことが考えられます。今後は、児童生徒が調査時に安心して取り組めるよう支援するとともに、制限も緩和されたことから、教育活動のさらなる充実や、きめ細かな指導の推進等を図る必要があります。	
		実績値	第2期から設定	77.8	75.4	73.4	70.1		増減							
		「学習がすきだ、どちらかといえば好きだ【小5】【中2】では、前年度より実績値が下がっています。実施時期が令和5年4月上旬であり、新年度における学習の楽しさ等をまだ感じられていない段階での調査であったこと、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験的な活動等様々な活動が制限されていた令和4年度の取組に対しての反応があったことが考えられます。今後は、児童生徒が調査時に安心して取り組めるよう支援するとともに、制限も緩和されたことから、教育活動のさらなる充実や、きめ細かな指導の推進等を図る必要があります。	目標値				65.5	66	67	%	↗	b	c	c	●「学習が好きだ、どちらかといえば好きだ【小5】【中2】では、前年度より実績値が下がっています。実施時期が令和5年4月上旬であり、新年度における学習の楽しさ等をまだ感じられていない段階での調査であったこと、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験的な活動等様々な活動が制限されていた令和4年度の取組に対しての反応があったことが考えられます。今後は、児童生徒が調査時に安心して取り組めるよう支援するとともに、制限も緩和されたことから、教育活動のさらなる充実や、きめ細かな指導の推進等を図る必要があります。	
		実績値	第3期から設定	61.2	64.8	61.8	59.5		増減							
「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ」と回答した児童生徒の割合【小5】	目標値				96.2	96.5	97	%	↗	c	c	c	●「授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つ、どちらかといえば役に立つ【小5】では、目標値を下回っています。各教科等を学ぶ意義を実感させることについて課題があると考えられます。児童が、学習した内容と社会とのつながりを見え、課題を発見し追究・解決する取組の大切さや味わえるよう、手立ての充実を図る必要があります。			
実績値	第2期から設定	93.8	92.4	91.7	91.5		増減									
学校給食の残食率(小学校)【変わり飯】	目標値				6.6	6.21	5.41	%	↘	a	c	c	●令和5年度の学校給食の残食率の結果について、小学校では白米・変わり飯・豆製品・藻類が、中学校では変わり飯が前年度より増えました。増えた要因としては、献立の組合せによる食べづらさ等が要因の一つとして考えられるため、引き続き食べやすい献立の作成と提供及び食品ロスなどSDGsにつながる学びを推進する取組を実施していきます。			
実績値	第3期から設定	第3期から設定	7	5.37	8.29		増減									
学校給食の残食率(小学校)【豆製品】	目標値				6.49	5.98	4.95	%	↘	a	c	c	●令和5年度の学校給食の残食率の結果について、小学校では白米・変わり飯・豆製品・藻類が、中学校では変わり飯が前年度より増えました。増えた要因としては、献立の組合せによる食べづらさ等が要因の一つとして考えられるため、引き続き食べやすい献立の作成と提供及び食品ロスなどSDGsにつながる学びを推進する取組を実施していきます。			
実績値	第3期から設定	第3期から設定	7	6.43	7.63		増減									
学校給食の残食率(中学校)【変わり飯】	目標値				12.29	11.27	9.24	%	↘	b	c	c	●令和5年度の学校給食の残食率の結果について、小学校では白米・変わり飯・豆製品・藻類が、中学校では変わり飯が前年度より増えました。増えた要因としては、献立の組合せによる食べづらさ等が要因の一つとして考えられるため、引き続き食べやすい献立の作成と提供及び食品ロスなどSDGsにつながる学びを推進する取組を実施していきます。			
実績値	第3期から設定	第3期から設定	13.3	12.4	14.52		増減									

※掲載している数値や区分等については、現時点での見込であり、今後、修正・変更になる可能性があります。

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
 [^] ⇒ ^ : 数値が高いことが望ましい指標
 v : 数値が低いことが望ましい指標
 [増減] ⇒増減:現在の水準から増加又は減少させていく指標
 維持:水準を維持していく指標

部会	施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等			
			目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期 中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度				第3期中間 達成度
第1部会（子育て・教育・福祉部会）	2-2-2	一人ひとりの教育的ニーズへの対応 (支援が必要な児童生徒の学習環境を向上させる)	目標値				92	92	92	%	↗	c	c	c	●「いじめの解消率」については、国のいじめの認知に関する考え方の周知が図られ、被害にあった児童生徒が心身の苦痛を感じていると判断した場面をきめ細かく認知している一方、いじめ解消の定義(被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間(少なくとも3か月を目安)継続していること)に基づき判断した結果、「解消」とできない事案が多くなることから、いじめについて丁寧かつ慎重に対応することとなるため、解消率が目標値を下回りました。なお、令和4年度中に認知したいじめについて、年度を超えて解消した率(令和5年7月20日時点)は、小学校で98.0%、中学校で91.5%となっています。	
	実績値	83.2	91.8	76.5	81.8	79.6		増減	c		c	c				
	2-2-3	安全で快適な教育環境の整備 (安全で快適に過ごせる学習環境を整える)	目標値				24.5	24	23	件	↘	c	c	c	●各学校における児童生徒の発達段階に応じた安全教育や登下校時の通学指導の実施、関係機関との連携による通学路の危険個所の点検・改善の取組、学校・家庭・地域等と連携した見守り活動の推進など、様々な取組を進めてきたが、児童生徒の登下校中の事故件数について目標を下回る結果となりました。事故の原因として最も多いものとして、運転手側の前方不注意が挙げられます。この結果を学校をはじめ、警察等関係機関と共有するとともに、児童生徒の交通事故防止に向け、関係機関と協力・連携しながら児童生徒のさらなる安全確保に向けた取組を進めることが必要です。	
	実績値	29	28	35.6	34.6	33		増減	c		c	c				
	2-2-4	学校の教育力の向上 (教職員の資質を高め、保護者や地域と連携して、よりよい学習活動(授業等)を実現する)	「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合【小6】	目標値				58.5	59	60	%	↗	c	c	c	●成果指標である「地域行事への参加」及び「保護者等の学校運営への参加」は、いずれも目標値を下回りました。「地域行事への参加」については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して、小学校では平成29年度と同様の地域行事への参加率に戻りましたが、中学校では、依然として、地域行事の開催や参加が制限されていた余波が残っており、目標値には達することが難しい状況であったと考えています。「保護者等の学校運営への参加」について、中学校で達成率が低いのは、保護者等が参加できる活動が少ないことによると考えています。小学校では、保護者や地域住民の学校運営の参加の達成度が令和4年度と比べ令和5年度が約10%回復しており、保護者や地域住民が学校運営に参加する学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)を拡充したことにより、学校運営への参加の機会が増えていることによる成果が表れてきたものと考えています。
				実績値	53.6	47.4	45	41.1	47.5			増減	c	c	c	
		「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の割合【中3】	目標値				34	36	40	%	↗	c	c	c	●成果指標である「地域行事への参加」及び「保護者等の学校運営への参加」は、いずれも目標値を下回りました。「地域行事への参加」については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して、小学校では平成29年度と同様の地域行事への参加率に戻りましたが、中学校では、依然として、地域行事の開催や参加が制限されていた余波が残っており、目標値には達することが難しい状況であったと考えています。「保護者等の学校運営への参加」について、中学校で達成率が低いのは、保護者等が参加できる活動が少ないことによると考えています。小学校では、保護者や地域住民の学校運営の参加の達成度が令和4年度と比べ令和5年度が約10%回復しており、保護者や地域住民が学校運営に参加する学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)を拡充したことにより、学校運営への参加の機会が増えていることによる成果が表れてきたものと考えています。	
			実績値	31.2	31.9	31.2	27.1	27.7			増減	c	c	c		
		「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答した児童生徒の割合【小5】	目標値				94	94	94	%	↗	b	c	c	●成果指標である授業の予習復習を含む「計画的な家庭学習」については、目標値を上回りました。GIGA端末の活用や学びの多様性を充実する教員研修の充実により、児童生徒の学習方法の選択が増え、一定の成果が表れたものだと考えています。一方、「学校生活の楽しさ」については、目標値を下回りました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しましたが、児童生徒が期待していた体験活動や交流活動、児童生徒主体の学校行事等の教育活動がコロナ禍前の活動までには戻らなかったことが要因の一つであると捉えており、引き続き、児童生徒一人ひとりの学習への意欲を引き出す授業づくりと安心して過ごせる学校づくりを推進していくことが必要であると考えています。	
			実績値	93.3	94.4	93.8	93.3	82.2			維持	b	c	c		
		「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答した児童生徒の割合【中2】	目標値				91	91.5	93	%	↗	b	c	c	●成果指標である授業の予習復習を含む「計画的な家庭学習」については、目標値を上回りました。GIGA端末の活用や学びの多様性を充実する教員研修の充実により、児童生徒の学習方法の選択が増え、一定の成果が表れたものだと考えています。一方、「学校生活の楽しさ」については、目標値を下回りました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行しましたが、児童生徒が期待していた体験活動や交流活動、児童生徒主体の学校行事等の教育活動がコロナ禍前の活動までには戻らなかったことが要因の一つであると捉えており、引き続き、児童生徒一人ひとりの学習への意欲を引き出す授業づくりと安心して過ごせる学校づくりを推進していくことが必要であると考えています。	
			実績値	89.9	89.9	89.9	90.9	81.1			増減	b	c	c		
		保護者や地域が運営に「よく参加している」と回答した学校の割合【中】	目標値				28	31.5	38.2	%	↗	c	c	c	●成果指標である「地域行事への参加」及び「保護者等の学校運営への参加」は、いずれも目標値を下回りました。「地域行事への参加」については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して、小学校では平成29年度と同様の地域行事への参加率に戻りましたが、中学校では、依然として、地域行事の開催や参加が制限されていた余波が残っており、目標値には達することが難しい状況であったと考えています。「保護者等の学校運営への参加」について、中学校で達成率が低いのは、保護者等が参加できる活動が少ないことによると考えています。小学校では、保護者や地域住民の学校運営の参加の達成度が令和4年度と比べ令和5年度が約10%回復しており、保護者や地域住民が学校運営に参加する学校運営協議会設置校(コミュニティ・スクール)を拡充したことにより、学校運営への参加の機会が増えていることによる成果が表れてきたものと考えています。	
			実績値	第3期から設定	第3期から設定	24.5	18.9	18.9			増減	c	c	c		
	2-3-2	自ら学び、活動するための支援 (市民が生きて学び、活動するための環境をつくる)	教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数	目標値				9,125	9,115	9,2	万人	↗	d	c	c	●教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数、教育文化会館・市民館・分館施設利用率については、新型コロナウイルス感染症の影響により講座開催数や受講者数が一度大きく減少し、令和5年度は令和4年度と比較し増加はしていますが、目標を下回る状況となっているため、市民が参加しやすい実施形態の検討及び実施を行うとともに、新たなニーズに対応した新規事業の実施を検討するなど、市民が集う利用しやすい環境づくりに取り組む必要があります。
			実績値	8.9	8.9	1.3	4,135	5,564		増減		d	c	c		
			教育文化会館・市民館・分館施設利用率	目標値				57.4	57.5	57.7	%	↗	c	c	c	●教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数、教育文化会館・市民館・分館施設利用率については、新型コロナウイルス感染症の影響により講座開催数や受講者数が一度大きく減少し、令和5年度は令和4年度と比較し増加はしていますが、目標を下回る状況となっているため、市民が参加しやすい実施形態の検討及び実施を行うとともに、新たなニーズに対応した新規事業の実施を検討するなど、市民が集う利用しやすい環境づくりに取り組む必要があります。
			実績値	56.6	56.7	37.8	48.7	50.7		増減		c	c	c		
			市立図書館・分館における図書館の入館者数	目標値				437.5	438	439	万人	↗	c	c	c	●「市立図書館の入館者数」については、システム更新に伴う図書館資料の貸出停止や休館等のため目標を下回りました。今後は図書館活動をより充実させるため、「今後の市民館・図書館のあり方」の実現に向けた取組が必要となっています。
			実績値	433.7	409.4	226.4	327.7	317.9		増減		c	c	c		
学校施設開放の利用者数			目標値				267.8	267.9	268.1	万人	↗	c	c	c	●「学校施設開放の利用者数」については、目標を下回る結果となりました。学校施設が使えることを市民が知らないことや、使うための手続等が面倒で使づらいことが原因であると考えられるため、もっと使ってもらうための情報発信の強化や、使いやすくなるための予約システム及びスマートロックの導入に向けた取組が必要となっています。	
実績値			260.9	267.2	144.7	244.9	250		増減		c	c	c			
社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割合	目標値				70.875	71.25	72	%	↗	c	c	c	●社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割合については、目標を下回る状況となっているため、地域でのつながりがもてるような事業手法等を検討して進めていく必要があります。			
実績値	67.5	70.4	46.6	46.01	60.73		増減		c	c	c					

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
[↑] ⇒ : 数値が高いことが望ましい指標
 ↓ : 数値が低いことが望ましい指標
[増減] ⇒増減: 現在の水準から増加又は減少させていく指標
 維持: 水準を維持していく指標

部会	施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等		
			目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期 中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度			
第2部会（まちづくり部会）	1-1-1	災害・危機事象に備える 対策の推進 (災害発生時の被害や生活への影響を減らす)	目標値				-	56.4	60	%	↑	-	c	c	●総合計画に関する市民アンケートの結果、3つの指標で目標値を下回りました。年齢別集計の分析の結果、若年世代に向けた啓発に課題があると考えられるため、学生や親子向けの啓発、デジタルコンテンツを強化し、若年世代に対する防災意識の向上に向けて取り組む必要があります。
	実績値	第3期から設定	第3期から設定	52.9	-	47.3			増減		c	c	c		
	1-1-4	消防力の総合的な強化 (消防力を強化することで、さまざまな災害から市民を守る)	目標値				91	91	93	%	↑	c	c	c	●「消防団員の充足率」(R4:78.7%、R5:78.4%)については、消防団員募集動画の作成、アゼリアビジョンでの消防団員募集動画の放映、新聞休刊折り込みチラシへ消防団員募集広告の掲載、総務省消防庁消防団入団促進広報ポスター・PR動画等の制作への本市消防団員の協力、専修大学学園祭における消防団員募集広報及びアンケート調査の実施、「二十歳を祝うつどい」パンフレットの消防団員募集記事の掲載、機能別団員募集説明の開催等、若年層を中心とした幅広い世代への広報活動を展開し消防団活動のイメージアップを図るとともに、消防団協力事業所や消防団応援事業所を活用した事業推進により新規入団(R4:60人、R5:79人)がありましたが、健康上の理由、仕事との両立困難、家庭の事情及び住居の転居等による退団者もあり、結果として目標値を下回っている状況です。 今後も引き続き、若年層を中心とした幅広い世代に対して各種広報活動を積極的に実施するとともに、消防団員からの意見等を踏まえ、仕事とプライベートと両立をしていく上での負担軽減策や処遇改善等を検討するなどし、消防団員の確保対策を推進する必要があります。
	実績値	87.8	86.5	81.2	78.7	78.4			増減						
	3-3-1	協働の取組による緑の創出と育成 (多様な主体との協働、連携により緑を育む)	目標値				2,427	2,435	2,450	か所	↑	c	c	c	●緑のボランティア活動を行う団体等の設立の働きかけを継続的に実施することにより、「管理運営協議会」については増加しましたが、構成員の高齢化等を理由として「愛護会」が廃止されたケースが見られ、緑のボランティア活動箇所が減少し、目標を下回ったことから、今後、ボランティア活動を行う団体の継続支援及び新規参入を促していく必要があります。
	実績値	2,355	2,321	2,304	2,284	2,271			増減		c	c	c		
		緑の活動に取り組んでみたい、又は取り組んだことのある人の割合	目標値				-	71	75	%	↑	-	c	c	●緑の活動に取り組んでみたい又は取り組んだことのある人の割合については、目標値を下回っていますが、今後、全国都市緑化かわさきフェアを契機としたボランティア活動の情報発信や、協働・共創による取組と共に既存制度の見直しを進め、より多くの市民が緑に関わることのできる、環境の創出や仕組みの構築づくりを進めていきます。
	実績値	第3期から設定	第3期から設定	67.4	-	62			増減						
	3-3-4	農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進 (多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する)	目標値				12,000	12,000	12,000	㎡	↑	a	c	c	●生産緑地の年間新規指定面積の指定対象となる市街化区域内農地については、年々減少傾向であるほか、生産緑地への指定は土地の利用に規制がかかるため、土地所有者の指定申出に対する慎重な判断があり目標値を下回ったものと考えます。
	実績値	12,000	10,528	14,260	17,500	8,220			維持		a	c	c		
		都市農業に対する関心度	目標値				-	57	59	%	↑	-	c	c	●成果指標の「都市農業に対する関心度」は目標値を下回っており、要因として、広報機会が十分でなかったことなどが考えられる。今後は、市民が参加するイベントなどの機会を通じて、Instagramやデジタルガイドブックなど周知の強化を進めるとともに、Instagramフォロワーを増やすために投稿するコンテンツの見直し等に取り組む必要があります。
	実績値	第3期から設定	第3期から設定	54.8	-	54.4			増減						
	3-3-5	多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進 (多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める)	目標値				4,900	5,300	6,000	人	↑	d	d	d	●渡し場イベントの参加者数について、「丸子の渡し」は実施しましたが、市制100周年イベントとして、開催に向けて関係団体等と綿密に協議し準備を進めていました「登戸の渡し」について、荒天の予報により中止となったことから、目標値を下回ったものと考えます。引き続き、関係団体等との協議・調整などイベント開催に必要な取組を進めてまいります。
	実績値	第2期から設定	2,400	500	2,000	1,000			増減						
	4-5-1	魅力にあふれた広域拠点の形成 (川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘駅周辺の魅力を高める)	目標値				58.8	59.1	59.8	万人/日	↑	c	c	c	●「駅乗車人員※」については、テレワーク環境の普及など新型コロナウイルス感染症による社会変容等に伴い、感染前の状況には至らなかったものの、現状としては増加傾向にあります。また、新たな社会環境下においても取組の成果を確認することができるよう第3期総合計画から加えた「拠点駅周辺をさまざまな施設が充実した回遊性の高いまちと思う人の割合」はほぼ目標値を達成していることから、拠点整備の施策効果はあったものと考えます。 ※駅乗車人員の各年度の実績値は数値公表時期の関係から前年度の実績値を入力
	実績値	52.4	56.4	41.9	43.8	47.8			増減						
	4-5-2	個性を活かした地域生活拠点等の整備 (新川崎・鹿島田、溝口、鷺沼・宮前平、登戸・向ヶ丘遊園駅周辺の魅力を高める)	目標値				49.6	49.8	50	万人/日	↑	c	c	c	●「駅乗車人員※」については、新型コロナウイルス感染症の流行を契機として生じた働き方やライフスタイルの多様化などにより、令和2年度に乗車人員が大きく減少したことから、数値目標を達成できませんでしたが、毎年3万人を超える増加傾向にあります。また、新たな社会環境下においても取組の成果を測ることができるよう第3期実施計画から加えた「拠点駅周辺をさまざまな施設が充実した回遊性の高いまちと思う人の割合」についても、数値目標を達成していることから、本施策は一定の成果があるものと考えます。 ※駅乗車人員の各年度の実績値は数値公表時期の関係から前年度の実績値を入力
	実績値	47.3	48.3	35.7	38.8	42.3			増減						

※掲載している数値や区分等については、現時点での見込であり、今後、修正・変更になる可能性があります。

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
[^] ⇒ ^ : 数値が高いことが望ましい指標
 v : 数値が低いことが望ましい指標
[増減] ⇒増減: 現在の水準から増加又は減少させていく指標
 維持: 水準を維持していく指標

部会	施策名 (直接目標)		成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等			
				目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期 中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度			第3期中間 達成度	
第3部会（自治・文化・経済部会）	4-1-2	魅力と活力のある商業地域の形成 (魅力と活力のある商業地域の形成や付加価値が高く競争力のある商品の供給により、商業を活性化させる)	市内商店街で行われる新たな顧客の創出や商店街の回遊性を高めるイベントの開催数	目標値				22	23	25	回		d	d	d	●成果指標である「市内商店街で行われる新たな顧客の創出や商店街の回遊性を高めるイベントの開催数」については、新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなどの影響もあり、商店街等の賑わい創出等に向けたイベント開催数は回復傾向にありますが、従来からの一時的な集客イベントから会員店舗の誘客やリピーター確保に向けた取組への転換が進まず、目標を下回りました。目標達成に向けては、民間事業者等との連携による負担の軽減や専門家派遣等によるノウハウの共有などを提案しながら、開催数の増加に取り組んでいきます。	
			実績値	第2期から設定	17	3	10	12		増減							
			市場の年間卸売取扱量	目標値				151,433	151,433	151,433	t		c	c	c		●成果指標である「市場の年間取扱数量」は、全国的な市場経由率が低下傾向に推移していることもあり、目標を達成することはできませんでしたが、昨年比では、107%と増加していることから、市場の活性化や取扱量の確保等に一定の成果があったものと考えます。引き続き、南北市場のそれぞれの特徴を活かした活性化や市場運営の効率化等に努め、生鮮食品料品等の安定的な供給を図ってまいります。
				実績値	151,433	133,290	135,996	132,558	141,787			維持					
	4-1-3	中小企業の競争力強化と活力ある産業集積の形成 (市内中小企業の技術を活かして事業展開できる環境を整備することで、経営を改善し、成長を促進させる)	知的財産交流会におけるマッチングの年間成立件数	目標値				4	4	4	件		a	d	d	●「知的財産交流会におけるマッチングの年間成立件数」については、令和4年度は、目標どりの達成となったものの、令和5年度は、エネルギー価格や物価高騰等、市内中小企業を取り巻く事業環境の変化への対応で新製品開発等に取り組む企業が減少したことや、製造業以外での他業種において、新製品開発等に取り組む企業の掘り起こし不足等により、1件と目標を下回りましたが、ホームページ等を活用した開放特許の発信や、金融機関・他都市の自治体と連携した知的財産交流会を開催したほか、40社を超える大企業のシーズが継続的に開拓される等、一定の進捗があったものと考えます。	
			実績値	4	3	2	4	1		維持							
	4-3-1	人材を活かすくみづくり (市内での雇用を促進するとともに、市内の優れた技能を次世代に継承する)	就業支援事業による就職決定者数	目標値				495	495	495	人		b	c	c	●成果指標の「キャリアサポートかわさきにおける就職決定者数」は、令和4年度はおおむね目標どりの実績となっていました。令和5年度については失業期間の長期化傾向等から目標を下回っています。「就職氷河期世代の就職決定者数」についてもキャリアサポートかわさきにおける就職決定者数の減の影響を受け、目標を下回っています。そのため、令和6年度からはマッチングイベントの統合等によりコストを削減するとともに広報費に回す予算を増やし、より効果的な広報手法を検討するなど周知を強化していくことで、就職決定者数目標が達成されるよう努めています。	
				実績値	465	472	412	489	414			増減					
			かわさきマスターのイベント出展等の活動回数	目標値				103	104	106	回		c	c	c	●成果指標の「かわさきマスターのイベント出展等の活動回数」は、特に新型コロナウイルス感染症の5類以降前までの時期において、学校派遣、イベントへの出展や市民向け講座が一部実施されなかったこと、また活動回数はマスター個々の活動状況にも左右されるため、目標を下回っています。今後はイベント開催状況等を踏まえつつ、積極的な活動支援を実施してまいります。	
				実績値	第2期から設定	97	38	82	86			増減					
			就職氷河期世代の就職決定者数	目標値				235	235	235	人		a	c	c	●成果指標の「キャリアサポートかわさきにおける就職決定者数」は、令和4年度はおおむね目標どりの実績となっていました。令和5年度については失業期間の長期化傾向等から目標を下回っています。「就職氷河期世代の就職決定者数」についてもキャリアサポートかわさきにおける就職決定者数の減の影響を受け、目標を下回っています。そのため、令和6年度からはマッチングイベントの統合等によりコストを削減するとともに広報費に回す予算を増やし、より効果的な広報手法を検討するなど周知を強化していくことで、就職決定者数目標が達成されるよう努めています。	
				実績値	第3期から設定	第3期から設定	225	260	201			増減					
	4-4-2	広域連携による港湾物流拠点の形成 (川崎港での物流を活かしている)	川崎港取扱貨物量(公共埠頭)	目標値				1,227	1,245	1,280	万t		c	c	c	●川崎港取扱貨物量(公共埠頭)については、新型コロナウイルス感染症に端を発した船社による貨物量の多い港湾への貨物の集約化の影響等によりコンテナ取扱貨物量が減少したことや、需要の後退に伴い国内の出荷量が減少した影響等により金属くずの取扱量が減少したことなどから、目標を下回りました。 ※指標については港湾調査(暦年)を用いているため、R4(暦年)実績をR5年度実績値に記載しています。	
				実績値	1,134	1,044	888	852	839			増減					
	4-4-3	市民に開かれた安全で快適な臨海部の環境整備 (川崎港の魅力を市民に広めるとともに、港の活力を高める)	川崎マリエン利用者数(港湾振興イベント及びスポーツ施設等の利用者を含む)	目標値				42.25	42.5	43	万人		d	c	c	●「川崎マリエン利用者数(港湾振興イベント及びスポーツ施設等の利用者を含む)」については、令和5年度は前年度と比較して大幅に増加しているものの、「川崎みなと祭り」のメインイベントの開催規模が新型コロナウイルス感染症拡大前までの規模には至っていないことなどが影響し、目標を達成できませんでした。テニス教室やビーチバレー普及事業などの一般市民向けイベント等に加え、「川崎みなと祭り」では100周年記念事業と連携して開催するなど、利用者増加に向けて取り組む必要があります。	
				実績値	40	34.5	12.4	23.63	31.66			増減					
			年1回以上の直接観戦率	目標値				-	34	35	%		-	c	c	●スポーツ観戦率は28.6%で目標値を下回りました。コロナ禍に無観客や観客数制限をして試合が行われたことによる観戦離れの影響があると考えますが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことやかわさきスポーツパートナー各チームの活躍もあり、回復傾向にあります。また、観戦率を居住区別にみると、各チームの試合会場や練習場などの活動拠点から近い4区(幸、中原、高津、麻生)が全体平均より高く、川崎、宮前、多摩は全体平均より低くなっています。スポーツの魅力が市内全域に浸透するよう、引き続きスポーツを「みる」機会の創出に取り組む必要があると考えます。	
				実績値	30.4	26.1	23.4	-	28.6			増減					
			スポーツのまちづくりの推進 (スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす)	スポーツセンター等施設利用者数	目標値				276	276	276	万人		c	c	c	●スポーツセンター等施設利用者数は257万人で、令和4年度の223万人を上回ったものの、目標値を下回りました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行するまで本市の行政運営方針に基づき施設運営を行ったことや、5類移行後も感染リスクを考慮して利用を控える方がいることにより少ないものと考えます。引き続き、必要となる感染防止対策を実施した上で安全・安心な施設運営を行うことにより、市民のスポーツを「する」機会の充実を図っていく必要があると考えます。
					実績値	261.8	259.9	123.9	223	257			増減				
	4-8-1		市障害者スポーツ大会競技参加者数	目標値				423	431	447	人		c	c	c	●市障害者スポーツ大会競技参加者数は356人で、令和4年度の300人を上回ったものの、目標値を下回りました。7大会中1大会が荒天により中止となったことに加え、障害のある方の中には新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高い方も多く、参加を見送っている方がいたものと考えます。引き続き、障害のある方が安全・安心に参加できるよう一定の感染防止対策を実施したうえで大会を開催するとともに、広報先の情報収集や手法の検討により参加者の増加を図り、パラスポーツを推進していく必要があると考えます。	
				実績値	359	402	422	300	356			増減					

第1期策定時等を下回った成果指標の原因分析等について

部会での審議対象施策

※1 [%] ⇒指標の単位
 [^] ⇒ ^ : 数値が高いことが望ましい指標
 v : 数値が低いことが望ましい指標
 [増減] ⇒増減: 現在の水準から増加又は減少させていく指標
 維持: 水準を維持していく指標

部会	施策名 (直接目標)	成果指標	成果指標の進捗状況等										原因分析等			
			目標値 実績値	第1期 策定時値	第2期 策定時値	第3期 策定時値	R4年度	第3期 中間 (R5年度)	第3期 目標値 (最終目標)	指標の補足説明 ※1	R4年度 達成度	R5年度 達成度				第3期中間 達成度
4-8-2	市民の文化芸術活動の振興 (市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする)	主要文化施設の入場者数	目標値				140.5	140.5	140.5	万人	↗	c	c	c	●主要文化施設の入場者数は、令和4年度は令和元年東日本台風以降に休館となっている市民ミュージアムや新型コロナウイルスの感染症対策による施設の臨時休館、各種イベント等の中止・延期などの影響により、達成率は62.4%と目標値を下回り、令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類へ移行したこともあり、イベントの制限等がなくなるなど、入場者数は増加しましたが、達成率は71.9%と目標値を下回りました。	
			実績値	126.9	128.6	57.1	87.7	101			増減					
		年1回以上文化芸術活動をする人の割合	目標値				-	19	20	%	↗	-	c	c		●年1回以上文化芸術活動をする人の割合は令和5年度は14.1%、文化・芸術の環境に対する満足度は令和5年度は31.5%と共に目標値を下回り、これは新型コロナウイルス感染症による影響に加え、市民が文化芸術活動や環境について知る機会が少ないこと等が要因として考えられることから、コロナ禍以前の状態に戻りつつある今後の社会環境の変化を捉え、文化芸術活動や参加を促す情報発信など継続して実施する等、引き続き目標の達成に向け取り組んでまいります。
			実績値	14.6	12.8	12.1	-	14.1			増減					
4-8-3	音楽や映像のまちづくりの推進 (音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる)	「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人の割合	目標値				-	58.5	60	%	↗	-	c	c	●「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人の割合については、目標を下回りました。これは20代、30代の市民の実感度が他の世代に比べて低いことが要因の一つです。また、区域別に見ると、ホールでの音楽公演や街なかでイベントを多く実施している川崎区、幸区、中原区、麻生区が地区と比較して割合が高く、「音楽のまち」の取組自体は一定の評価を得ているものと考えますが、割合の低かった高津区、宮前区、多摩区における環境づくりが課題となっています。	
			実績値	53.3	54	46.3	-	51.3			増減					
		「映像のまち」の取組を知っていて、評価できると回答した人の割合	目標値				-	27.5	30	%	↗	-	d	d		●「映像のまち」の取組を知っていて、評価できると回答した人の割合については、目標を下回りました。これは、近年ロケ地がわさき推進事業において、平成27年度の「シン・ゴジラ」のような川崎を舞台とした全国規模で有名な大きな映画のロケがあり、取組を知る機会が少なくなることが要因の一つと考えられます。また、回答を地域別に見ると、映像イベント等の多い川崎区や、映画大学やアートセンター、映画祭を実施している麻生区では、「市の取組を知っており、評価できる」と回答した市民がそれぞれ16.7%、22.8%と高く、映像のまちづくりの取組自体は一定の評価を得ているものと考えますが、一方で、市の中部では割合が低い傾向にあります。なお、「市の取組を知らないが、取組(ドラマ等の撮影の誘致など)」は評価できる」と回答した人の割合が、市中部も含め48.1%であることから、今後は、イベントの実施など取組の推進と併せて、市の取組自体を市民に知っていただけたよう事業の周知に努める必要があります。
			実績値	18.4	19.1	11.4	-	11.6			増減					
4-9-1	都市イメージの向上とシビックプライドの醸成 (市内外における市の認知度・好感度を高める)	シビックプライド指標 市民の市に対する「愛着」に関する平均値	目標値				6.6	6.7	7	点	↗	c	c	c	●都市イメージ調査による「シビックプライド指標」について、目標値には到達しないものの、第2期最終結果と比較し、第3期においては、「愛着」「誇り」とも、0.2ポイント上昇しました。また、特に「シビックプライド指標」が低い年齢層において、令和4年度と比較して「愛着」は20歳代で0.3ポイント、「誇り」は15歳～19歳で0.7ポイント、20歳代で0.5ポイント上昇するなど、指標の向上がみられました。SNSなどの積極的な活用や「かわさきスペシャルサポーター」制度による各種事業の実施、教育委員会と連携した本市の多様性、魅力を児童・生徒に伝える取組などの効果があったものと考えられます。 ●また、隣接都市からの本市のイメージも、第2期の結果(39.8%)と比較して5.7ポイント上昇しており、市制100周年を契機としたプロモーションによる効果があったものと考えられます。 ●今後は、引き続き、本市の魅力的な情報とあわせ、施策や事業、各種統計データ等に基づいた情報を多様な手法を活用し発信していく必要があります。 ●ブランドメッセージのロゴについては、微減となったものの、85%超を維持しており、市制100周年の広報においてもブランドメッセージを活用していることなどから、市民の目に触れる機会が増えているなどのPR効果が確認できました。	
			実績値	6	5.9	5.5	5.5	5.7			増減					
		隣接都市における、川崎市に良いイメージがあると感じている人の割合	目標値				53	53.5	55	%	↗	c	c	c		●都市イメージ調査による「シビックプライド指標」について、目標値には到達しないものの、第2期最終結果と比較し、第3期においては、「愛着」「誇り」とも、0.2ポイント上昇しました。また、特に「シビックプライド指標」が低い年齢層において、令和4年度と比較して「愛着」は20歳代で0.3ポイント、「誇り」は15歳～19歳で0.7ポイント、20歳代で0.5ポイント上昇するなど、指標の向上がみられました。SNSなどの積極的な活用や「かわさきスペシャルサポーター」制度による各種事業の実施、教育委員会と連携した本市の多様性、魅力を児童・生徒に伝える取組などの効果があったものと考えられます。 ●また、隣接都市からの本市のイメージも、第2期の結果(39.8%)と比較して5.7ポイント上昇しており、市制100周年を契機としたプロモーションによる効果があったものと考えられます。 ●今後は、引き続き、本市の魅力的な情報とあわせ、施策や事業、各種統計データ等に基づいた情報を多様な手法を活用し発信していく必要があります。 ●ブランドメッセージのロゴについては、微減となったものの、85%超を維持しており、市制100周年の広報においてもブランドメッセージを活用していることなどから、市民の目に触れる機会が増えているなどのPR効果が確認できました。
			実績値	50.3	42	39.8	38	45.5			増減					
4-9-2	川崎の特性を活かした観光の振興 (市内への集客及び滞在を増加させる)	主要観光施設の年間観光客数	目標値				1,913	1,971	2,100	万人	↗	c	c	c	指標のうち、「宿泊施設の年間宿泊客数」、「工場夜景・産業観光ツアーの年間参加者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、令和5年には目標を達成しました。指標のうち、未達成であった「主要観光施設の年間観光客数」については、数字の多くを占める施設にエリアリングを行ったところ、新型コロナウイルス感染症の影響から施設への来訪機会が変遷し、コロナ以前の水準に戻るまでの難しさがあると懸念したところであり、各施設とも連携を図りながら、幅広く誘客に資する取組を行う必要があります。また、隣接都市に未達成であった「宿泊施設の年間宿泊客数(外国人)」については、新型コロナウイルス感染症に関する水際対策が令和5年4月29日0時まで継続していたにもかかわらず、令和5年の値が目標の8割程度まで到達していることから、令和6年以降は目標達成が十分に見込まれる状況にあります。いずれの指標についても人数に関する指標であり、観光庁の「観光立国推進基本計画(第4次)」では「質の向上を強調し、人数に依存しない指標」へと観光施策の目的意識について変化がみられていることも踏まえ、令和7年度末の「新・かわさき観光振興プラン」の終了を見据えた観光行政の検討においても、指標設定の考え方と施策との連携状況なども含めて、今後、川崎市観光振興計画推進委員会での審議・検討を行うことといたします。	
			実績値	1,504	1,549	1,276	1,262	1,273			増減					
5-1-1	市民参加の促進と多様な主体との協働・連携のしくみづくり (多様な主体が協働・連携して地域課題の解決を進める)	地域貢献活動に関する取組にかかわったことのある人の割合	目標値				-	23	25	%	↗	-	c	c	●「地域貢献活動に関する取組にかかわったことのある人」の割合については、ライフスタイルの多様化や、活動者の高齢化が進み、新たな担い手が見つかりづらいことなどから目標を達成しませんでした。「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定前のR29年度と比べると、総じて上昇傾向にある(H29:14.7%、R1:15.7%、R3:16.9%)ことから、取組の成果が徐々に現れているものと考えます。また、「活動を知っている人」の割合が前回数値よりも上昇(R3:46.1%、R5:47.0%)していることから、啓発等の取組の成果だと考えます。	
			実績値	19.8	15.3	16.9	-	16.3			増減					
		町内会・自治会加入率	目標値				64	64	64	%	↗	c	c	c		●町内会・自治会加入率の漸減は全国的な傾向であるとともに、本市においては、総世帯数の伸び率に町内会・自治会加入率の伸び率が追いつかない状況が続いています。要因として、ライフスタイルや価値観の多様化、単身世帯の増加や核家族化の影響による世帯規模の減少、本市域での人口の増加等が挙げられます。今後、町内会・自治会の重要性や魅力を発信するとともに、町内会・自治会活動応援補助金の活用等により、町内会・自治会活動の活性化に努めていきます。
			実績値	63.8	63.2	58.4	57.7	56.9			維持					

※掲載している数値や区分等については、現時点での見込であり、今後、修正・変更になる可能性があります。